



第45回「おかねの作文」コンクール

お金は希望を届ける

東京都・早稲田大学高等学院中学部 1年 古矢 俊太

去年日本を襲った東日本大震災。今でもガレキが残っていたり、建物が崩れていたりしている地域があり、完全に復興したとはいえません。こうした中で、復興支援としてのお金の重要性が高まっていると思います。

国はこれまで、東北地方に東日本大震災の復旧・復興支援として18兆円ものお金を予算化しています。こうしたお金は、仮設住宅を作ったり、ガレキを処理したり等、生活の基礎を元に戻すことに役立てられています。

国の復興支援の取り組みをニュースで知った時に、東北地方のために自分自身でできることはないかという思いを強く持ちました。そして、この思いを実行に移すことにしました。

一つ目は募金です。僕はいろいろな場所で街頭募金を行っているボランティアの方たちを見ました。僕が当時通っていた小学校でも、学校全体で日本赤十字社に募金しようということになり、自分自身もわずかながらのお金ではありましたが募金をしました。日本赤十字社に全国から集まった募金の金額は3,000億円を超えるまでに至っていると後で知りました。僕は、多くの人の善意を合わせれば、これだけの大きな力になるのだということを実感しました。

二つ目は東北地方への旅行です。今、東北地方は風評被害で旅行に行く人が少なかったり、東北産の野菜や果物が売れなかったりと、経済面で大きなダメージを受けています。根拠のない印象だけで東北の方々が苦しい思いをされているような現状は何とか改善しなければならないと思います。このような取り組みは様々な形で行われていて、僕が通学している時に、駅や電車の中で「東北に旅行に行きませんか。」と書かれたポスターが張ってあるのをよく目にします。僕も、実際に東北地方を旅行して、震災の爪あとを生で見ることは良い経験だと思い、さらにそのことが東北地方の支援にもつながることから、東北地方に旅行することにしました。





一番印象に残っているのはホテルのフロントの方の話です。このホテルは高台でしかも湾の中にあっただため、直接的な被害はなかったとのことでしたが、津波が襲って来る瞬間、また引いていく瞬間が眼前で広がり、とても怖い思いをしたとのことでした。波が一気に高くなって襲って来て、湾の中にあっただ5隻の遊覧船は、1隻を残して流されてしまったそうです。

また、僕が泊まったホテルは、ガレキを撤去する工事関係者の方やボランティアの方たちの宿泊施設にもなっていたのですが、あまりにも多くの方たちが宿泊したため、部屋が汚くなってしまい、今年の4月にリニューアルをしたそうです。工事には費用もかかったため、一人でも多くの方に東北に旅行してもらって宿泊をして欲しい、とおっしゃっていました。

また、仮設住宅で営業している店に食事にも行きました。そのお店はもともとは宮城で店を開いていたそうですが、津波で流されてしまい、岩手県かまいしの釜石市に引越してきたそうです。普通の住宅とは違い断熱材が入っていないため、エアコンがあまり効きません。こうした厳しい環境下でも、汗をかきながら一生懸命働かれています。

このように、非常につらい体験にもめげず、元の生活を取り戻そうと頑張がんばっていらっしゃる方々と接することができたのは、貴重な経験でした。

東北旅行では、テレビで見ただけでは分からないようなことを肌で感じることができました。そして、元の生活を取り戻すために頑張っている方を応援するためには、その方たちが作る物、提供するサービスを積極的に購入することが大事であるということも知りました。

募金等の形で人々の善意を集めるということも大切ですが、東北地方の物産を買ったり、旅行をして東北地方でお金を消費するなど、自らも楽しみながらその行動が支援にもつながっているという形の方が、一時的ではない長続きする支援になるのではないかと思います。まだまだ東日本大震災の復興には多くの課題がありますが、私たち一人ひとりがお金を使う際に「東北地方のためにできることはないか」という意識を持つことが大切だと考えます。





〈参考文献〉

- ・参議院予算委員会調査室 崎山建樹「18兆円に達した東日本大震災の復旧・復興経費」『立法と調査』329号、2012年6月
URL http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2012pdf/20120601003.pdf
- ・日本赤十字社「東日本大震災義援金の受付・送金状況」
URL http://www.jrc.or.jp/contribution/13/Vcms3_00002096.html 閲覧日 2012年8月

